



TITLE:

ヒヒとマカクの比較生物学(V 共同 利用研究 2.研究成果)

AUTHOR(S):

CITATION:

ヒヒとマカクの比較生物学(V 共同利用研究 2.研究成果). 霊長類研究所
年報 2000, 30: 144-144

ISSUE DATE:

2000-10-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/165311>

RIGHT:

- ・ニホンザルにおける骨代謝研究：骨断面特性値の横断的年齢変化

菊池泰弘 (京都大・理)

- ・霊長類大脳皮質のドーパミンによるシナプス形成発達機構の解明

岡戸信男、首藤文洋 (筑波大・医)

- ・ニホンザル腰椎における断面特性値の加齢変化

郡司晴元 (京都大・理)

ヒヒとマカクの比較生物学

(実施年度：平成9～平成11年度)

(推進者：庄武孝義・川本 芳・平井啓久・相見 満・松林清明)

これまでの長年の分子マーカーを用いた遺伝学研究で霊長類の分類群間の遺伝距離が他生物群間のそれに比べ著しく小さいことが指摘されている。その原因として霊長類では形態などに関係する調節遺伝子の進化速度がはやくなった。分子標識に関係する構造遺伝子の進化速度が遅くなった。霊長類がヒトに近縁であるために細分類になりすぎている。などの説明がされているがどれも定量的な具体的証明はなされていない。そこで本研究では一般に実験や観察の材料とされてことが多いヒヒとマカクに焦点をあて両者の遺伝学的、形態学的、生理学的等の特性を検索、比較し、上述した霊長類の特殊性が何に起因しているかを探る目的で計画された。下記に記すように3年間で計7件の課題が採択されたがヒヒの仕事が多く、ヒヒとマカクを直接比較定量する研究はマイクロサテライトDNAの仕事に1つ有ったのみで、形態的な研究が行われなかったので上述した3つの仮説は十分に証明されなかった。今後の課題として残った。

(平成9年度)

- ・マカクザルの精巣微細構造の比較による精子競争仮説の検討

榎本知郎、中野まゆみ、長戸康和
(東海大・医・形態)

松林清明 (京都大・霊長研)

- ・DNA分析によるヒヒとマカクの遺伝学的差異の定量的解析

打樋利英子、山本敏充、野澤秀樹、勝又義直
(名古屋大・医・法医学)

- ・マイクロサテライトDNAを使った種内、種間の遺伝的距離の解析

菱田 靖 (京都大・霊長研)

(平成10年度)

- ・マカクザルとヒヒの精子形成活性の比較による精子競争仮説の検討

榎本知郎、中野まゆみ、長戸康和
(東海大・医・形態)

松林清明 (京都大・霊長研)

- ・ヒヒとマカクの比較生物学：マイクロサテライトDNAをマーカーにした遺伝学的距離の解析

菱田 靖 (京都大・霊長研)

(平成11年度)

- ・マントヒヒのミトコンドリアDNA全塩基配列決定とそのヒヒ類の種分化解明への応用

楠田 潤、橋本雅之
(国立感染症研・遺伝子資源)

庄武孝義、川本 芳
(京都大・霊長研)

- ・ヒヒとマカクの比較生物学

山根明弘 (九州大・理・生物)